1

人気のお土産ネジチョコ ユニークな大ヒット商品

JR小倉駅の土産売り場にあったボルトとナットのチョコレート。

なにこれ、おもしろい！

このユニークなチョコレートをつくっている会社が小倉南区にあると聞き、取材に出かけた。

「うちの会社はもともと通信事業を展開していたんです」

出迎えてくださったのは、オーエーセンター株式会社の坂山智哉さん。坂山さんにユニークなチョコづくりの背景を教えていただく。「ネジチョコをつくり始めたのは2016年からです。行政から、北九州市らしいお土産をつくれないかと相談を受け、近代製鉄の発祥の地であることもあって鉄をイメージできる商品を考えました」

社長の吉武大志さんが3Dプリンターを活用し発案したのだと、坂山さんが教えてくださる。

吉武社長の発想は常に柔軟だ。

2003年にJR西小倉駅近くにある商業施設で携帯電話ショップを運営すると決まった時に、店舗にカフェを併設した。新規契約するお客さんの待ち時間が長く、待機中も楽しんでもらいたいと思ったからだ。

2005年にはスイーツ店「グランダジュール」の運営を始め、2020年にはチョコの製造を機械化する「ネジチョコラボラトリー」を立ち上げた。

工場で製造されるのはネジチョコ以外に、ロケット型や明太子型、洋式トイレ型など色々あり、その多くが地元の企業や大学からの要望で手がけた商品だという。

ネジチョコラボラトリーを案内してくださったフードサービス事業部の権田梨世（ごんだ）さんは、

「職場で好きな形のチョコの話をしている時、子どもに戻ったような気持ちになるんです」

と遊び心を持ちながら仕事をしていると話してくださった。

驚いたことに、坂山さんと権田さんがこちらの会社で働くきっかけになったのは、トライアスロンだ。吉武社長はノースナインという地域貢献のためのNPO法人の代表理事をしており、坂山さんとは関連イベントで知り合った。吉武社長が坂山さんをトライアスロンチームに誘い、権田さんともトライアスロン大会で出会った。

「トライアスロンをしていると、発想が柔軟になるんです」

泳いでいて足がつったり、自転車が壊れたり、レース中は様々なトラブルに見舞われる。そのつど迅速に対処し、競技を続ける精神力は、そのまま仕事にも生きていると坂山さんは微笑む。

チョコレートのボルトとナットは本物さながら、気持ちがいいくらいキュッと締まる。お土産に持ち帰ったネジチョコを高校3年生の息子に渡すと「わ、締まった！ 本物みたい！」と顔をほころばせ、大好きなおもちゃで遊んでいた幼い頃のように目を輝かせていた。

かつて日本の重工業をリードした鉄の町は、若い力を得て今もなお進化を続けている。でもその進化はただ国を富ませることではなく、人や環境を大切にする方へと向かっていた。

豊かさとは多くを持つことではなく、感じるもの。

満たされた気持ちになりながら、澄んだ青空と、白い風車が並ぶ美しい海に別れを告げた。

2

1 2020年に始動した「ネジチョコラボラトリー」。企業や大学とコラボした遊び心満載の製品が多数つくられている。 **2** 北九州ならではの土産物として誕生したボルトとナットを模したチョコ。カラフルなパッケージが可愛い。 **3** 以前は手作業だったチョコづくりを機械化。現在は一日で3万個を製造できる。 **4** 型の作成に3Dプリンターを使うのでボルトの溝も再現できる。ナットと組み合わせると本物さながらキュッと締まる。 **5** 話を聴かせてくださった権田梨世さん（左）と坂山智哉さん。二人ともトライアスロンに挑むアスリート。

3

4

5